

9.測定結果(メモリー)を呼び出しましょう

登録したユーザーは、前回の測定結果の記録(メモリー)を確認できます。

① ⌂/SETスイッチにタッチして、電源を入れます

「ゲスト」が点滅します。

② ▶/◀スイッチにタッチして測定記録を確認したいユーザー番号を選び、⌂/SETスイッチにタッチして決定します

ユーザーの設定と「8888」が順に表示されたあと、「0.0kg」が表示されます。

③ 「0.0kg」が表示されているときに、▶/◀スイッチのどちらかをタッチすると前回の測定記録が確認できます

結果表示中に▶/◀スイッチで測定結果の項目を切り替えます。

[体重→BMI→体脂肪率→内臓脂肪レベル→筋肉量→基礎代謝量→推定年齢→骨格筋率*→皮下脂肪率*→体水分率*→目標体重との差*]

BMI、体脂肪率、内臓脂肪レベル、骨格筋率、皮下脂肪率、体水分率は、判定も表示されます。判定については、「11.判定基準」を参考してください。

■メモリーの表示例



(ユーザー2の体脂肪率は「23.8%」で「やや高い」判定です。)

10.測定結果の項目について

*印はHMS525のみ測定される項目です。

BMI

■BMI(Body Mass Index)とは、肥満度を表す体格指数です。

日本ではBMIが22のときを標準体重(理想体重)とし、統計的に最も病気になりにくい体重とされています。

計算式: BMI = 体重kg ÷ (身長m × 身長m)

体脂肪率

■体脂肪率とは、体重のうち体脂肪の量が占める割合のことをいいます。

体脂肪とは体内にたくわまれた脂肪のこと、「内臓脂肪」と「皮下脂肪」に分けられます。体脂肪は活動エネルギー源になるだけでなく、体温を保つ、外的衝撃から体を守る、正常なホルモンの働きを保つなどの役割があります。しかし、体脂肪率が高すぎると高血圧、脂質異常症、糖尿病、心血管疾患などの生活習慣病になりリスクが高くなることが分かれています。

内臓脂肪レベル

■内臓脂肪とは、体脂肪のうち筋肉の内側の、特に腸や肝臓の周りにいた脂肪のことをいいます。

内臓脂肪が多く蓄積する「内臓脂肪型肥満」は、皮膚と筋肉の間の皮下組織に蓄積する皮下脂肪に比べ、糖尿病や脂質異常症など多くの生活習慣病が発症する確率が高いとされており、蓄積やすい一方で落ちやすいといふ性質があります。当社では独自の計算式で内臓脂肪がどれだけ蓄積しているかを算出し、それを「内臓脂肪レベル」として1~30でレベル分けしています。内臓脂肪レベルの推移を長期的に捉え、健康管理に役立つことが大切です。

*内臓脂肪レベルはあくまで自己安ですので、医学的な診断については医師にご相談ください。

*対象年齢は18才~80才です。

筋肉量

■筋肉とは、姿勢を保つたり心臓を動かしたりしている組織で、筋肉量はその重さを示します。

筋肉には、全身体を動かしたり、手や足を動かしたりするときに使われる「骨格筋」、心臓を動かす「心筋」、血管・消化管・気管支などの壁にある「平滑筋(内筋筋)」の3つがあります。筋肉には体温を保つたり、体を動かしたりするためのエネルギーを作り出るという大切な役割もあります。筋肉量が減るとエネルギー消費が減るため、脂肪が蓄積されやすくなり、さまざまな病気のリスクが高まります。

基礎代謝量

■基礎代謝とは、「生きていくために最低限必要なエネルギー」のことです。

私たちの体は、運動をしているときだけでなく、食事をしているときや、寝ているとき、安静にしているときでも、呼吸や心臓の拍動、体温維持などを行なっており、生命が維持されている限りエネルギーは消費されています。

この、生命維持のために必要とされる最低限必要なエネルギー量のことを基礎代謝量といいます。

■基礎代謝量は年齢や性別によって異なります。

基礎代謝量は生後成長するにつれて高くなり、16~18才前後をピークにその後は徐々に減り、一般に40才を過ぎると急激に下降線をたどります。これは加齢によって筋肉が減少することが主な原因とされています。

年齢だけでなく、性別、体格、生活状況、体表面積、平均体温、食事や運動などの日常行動によっても基礎代謝量は異なります。体温が一度上昇すると基礎代謝量は約13%増加し、脂肪と筋肉では筋肉の方が脂肪よりも消費されるエネルギーが多いので、女性より筋肉量の多い男性のほうが基礎代謝量が高くなっています。

保証規定

つぎのような場合には保証期間内でも有料修理になります。

・誤ったご使用またはお取扱いによる故障または損傷。
・保管上の不備によるもの、および使用者の責に帰する故障または損傷。

・火災、地震、水害、異常電圧、指定以外の電源およびその他の天災地変や衝撃などによる故障または損傷。
・保証書のご提示がない場合。

・保証書のお買い上げ日、販売店名などの記載に不備がある場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
・ご使用後の外装面のキズ、破損、外装部品、付属品、消耗品(電池)などの交換。

*お買い上げの販売店にご持参いただく場合の諸費用や弊社にご送付いただく場合の送料などは、お客様の負担となります。
・保証書の再発行はいたしませんので大切に保管してください。
・本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

保証書

CITIZEN

本書は、お客様が取扱説明書に従て正しく使用したにもかかわらず、万一故障した場合、本保証規定に従てお買い上げ後1年間は無料修理をおこなうことを約束するものです。お客様に記入いただきました本保証書は、保証期間内のサービス活動およびその後の完全点検のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

型式: HMS525-BK HMS323-WH HMS323-PM お買い上げ日: 年 月 日

ご住所: お名前:

販売店名および住所:

シチズン・システムズ株式会社 0120-88-6295 (お客様相談室)

〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12
E-mail: support@systems.citizen.co.jp
https://csj.citizen.co.jp

検査証:本製品は弊社の定められた検査に合格しております。

■基礎代謝量はエネルギー消費が多い筋肉量によって決まります。

一般に筋肉量が多く基礎代謝量が高い人ほど太りにくい傾向にあります。同じ体重でも体脂肪率が低く基礎代謝量が高いいほど、たくさん食べてもどんなにエネルギーが消費されるので、結果的に脂肪が蓄積しにくいう状態になります。

逆に基礎代謝量が低い人はエネルギーをなかなか消費できないため、余ったエネルギーが脂肪として体内にため込まれ太りやすい状態になります。

以下のよう体質、症状のある人は基礎代謝量が低い傾向にあり、特に7項目以上当てはまる人は基礎代謝量が低いといえるでしょう。

1. 体温が35.9°C以下である

6. 少量の食事でも太りやすい体質である

7. 月経不順である

8. 手足が冷える(冷え症)

9. 普段、体を動かすことが少ない

10. 低血圧である

■基礎代謝量が低いと肥満になりやすく、生活習慣病を誘発する原因になります。

基礎代謝量が低いと脂肪が蓄積しやすくなるため、肥満の原因になります。肥満の中でも特に内臓に脂肪がたまる「内臓脂肪型肥満」の人々は、高血圧や糖尿病などさまざまな生活習慣病が起こりやすくなります。生活習慣病は複数の病気が相互に複雑な関係を持ちながら進展するため、普段から予防が必要です。

※基礎代謝量は「甲状腺機能亢進症(ハセドウ病など、甲状腺ホルモンが分泌過多の病気)」によって高くなるケースもあります。

■基礎代謝量 ※厚生労働省「日本人の食事摂取基準」(2015年版)に基づく

年齢(才)	男性		女性		判定	
	基礎代謝基準値(kcal/kg体重/日)	参照体重(kg)	基礎代謝基準値(kcal/kg体重/日)	参照体重(kg)		
6~7	44.3	22.2	98.0	41.9	21.9	92.0
8~9	40.8	28.0	1,140	38.3	27.4	1,050
10~11	37.4	35.6	1,330	34.8	36.3	1,260
12~14	31.0	49.0	1,520	29.6	47.5	1,410
15~17	27.0	59.7	1,610	25.3	51.9	1,310
18~29	24.0	63.2	1,520	22.1	50.0	1,110
30~49	22.3	68.5	1,530	21.7	53.1	1,150
50~69	21.5	65.3	1,400	20.7	53.0	1,100
70以上	21.5	60.0	1,290	20.7	49.5	1,020

推定年齢

■推定年齢とは、基礎代謝量を基に当社独自の計算式で算出した推定の体の年齢です。

基礎代謝量が高いほど推定年齢は若くなります。一般的に筋肉量が多い人ほど基礎代謝量が高くなるため、実年齢と比較して目安にしましょう。

*対象年齢は18才~80才です。

骨格筋率*

■骨格筋率とは、筋肉のうち全体や手足を動かすときに使われる「骨格筋」の重さが体重に占める割合を示します。

骨格筋は運動・食事によって増やすことができ、骨格筋を増やすことで基礎代謝量が上がるので、結果としてエネルギー消費が増え、脂肪が蓄積されにくくなります。

皮下脂肪率*

■皮下脂肪とは、皮膚と筋肉の間の皮下組織にたくわまれる脂肪のことをいいます。

体温を保つ、外的衝撃から体を守るなどの役割を果たしています。皮下脂肪が多くなるとボディラインのくずれの原因となり、逆に少なすぎると気温や外的衝撃から身を守れません。男性と比べて女性の方が皮下脂肪はつきやすいとされていて、一度体につくと落としにくともいわれています。

*対象年齢は18才~80才です。

体水分率*

■体水分率とは、体重に占める体水分量の割合を示します。

体水分とは体内に含まれる水分のことを指し、具体的には「血液」「リンパ液」「細胞内液」「細胞外液」などのことです。体水分は人体の中で最も重要な構成物質のひとつで、体水分率は年齢や活動状況、体調などによって変動し、健康状態を反映するといわれています。

*対象年齢は20才~80才です。

11.判定基準

*印はHMS525のみの判定表示される項目です。

BMI

■BMIとは、生きていくために最低限必要なエネルギーのことです。

私たちの体は、運動をしているときだけでなく、食事をしているときや、寝ているとき、安静にしているときでも、呼吸や心臓の拍動、体温維持などを行なっており、生命が維持されている限りエネルギーは消費されています。

この、生命維持のために必要とされる最低限必要なエネルギー量のことを基礎代謝量といいます。

■基礎代謝量は年齢や性別によって異なります。

基礎代謝量は生後成長するにつれて高くなり、16~18才前後をピークにその後は徐々に減り、一般に40才を過ぎると急激に下降線をたどります。これは加齢によって筋肉が減少することが主な原因とされています。

年齢だけでなく、性別、体格、生活状況、体表面積、平均体温、食事や運動などの日常行動によっても基礎代謝量は異なります。体温が一度上昇すると基礎代謝量は約13%増加し、脂肪と筋肉では筋肉の方が脂肪よりも消費されるエネルギーが多いので、女性より筋肉量の多い男性のほうが基礎代謝量が高くなっています。

■体水分率* ※自社データに基づく

年齢(才)	体水分率		判定
	男性	女性	
<47.1%	<32.4%	低い	
20~29	47.1%~73.9%	32.4%~66.8%	標準
>73.9%	>66.8%	高い	
<44.4%	<31.6%	低い	
30~39	44.4%~71.2%	31.6%~66.0%	標準
>71.2%	>66.0%	高い	
<43.6%	<30.3%	低い	
40~49	43.6%~70.4%	30.3%~64.7%	標準
>70.4%	>64.7%	高い	
&			